

# 「周産期医療の充実のための本格的な支援について」

## 1 周産期医療の新たな支援体制について

- ・ 現在、国では、周産期医療体制のあり方に関する検討を進めており、本年夏頃までに新たな周産期医療体制整備指針を示す予定。
  - ・ 県では、国の指針を踏まえ、周産期医療関係者の御意見を伺いながら、新たな周産期医療体制整備計画を策定することとしている。
- 県では、総合周産期母子医療センター（岩手医科大学附属病院）に妊産婦及び新生児の緊急時における受入先を確保する周産期救急搬送コーディネーターを配置し、全県的な救急搬送体制を整備。（H23年度～）
- 妊婦健康診査については、平成21年度から全市町村が14回の診査費用を負担。（財源：～H24年度まで妊婦健康診査特例基金、H25年度～普通交付税措置）
- 妊産婦へのアクセス等支援については、県内11市町村が交通費助成、宿泊費助成等を実施。（H28.4時点）

## 2 周産期医療の拠点化について

- 県では、本県の周産期医療を取り巻く厳しい環境に対応するため、平成20年度に県内4つの周産期医療圏を設定し、医療機関の機能分担と連携の下、分娩リスクに応じた適切な医療提供体制の整備を推進。
- 周産期母子医療センターには、一定数以上の産科医、新生児科医、麻酔科医に加え、看護師、助産師などの医療従事者が必要であり、新たな周産期母子医療センターの設置は現状では困難。
- なお、関係学会からは、全国的に産科医が不足する中、医師の厳しい勤務条件を改善し、安全な分娩環境を確保するため、地域周産期母子医療センターの大規模化・重点化、具体的には産科常勤医の10名以上の配置などの提言がなされているところ。
- 次期周産期医療体制整備計画を策定するなかで、限られた医療資源を効率的に活用しながら、安心して出産できる体制を検討。

## 3 ICTの活用について

- 周産期医療情報ネットワークシステム「いーはとーぶ」の運用（H21年度～）

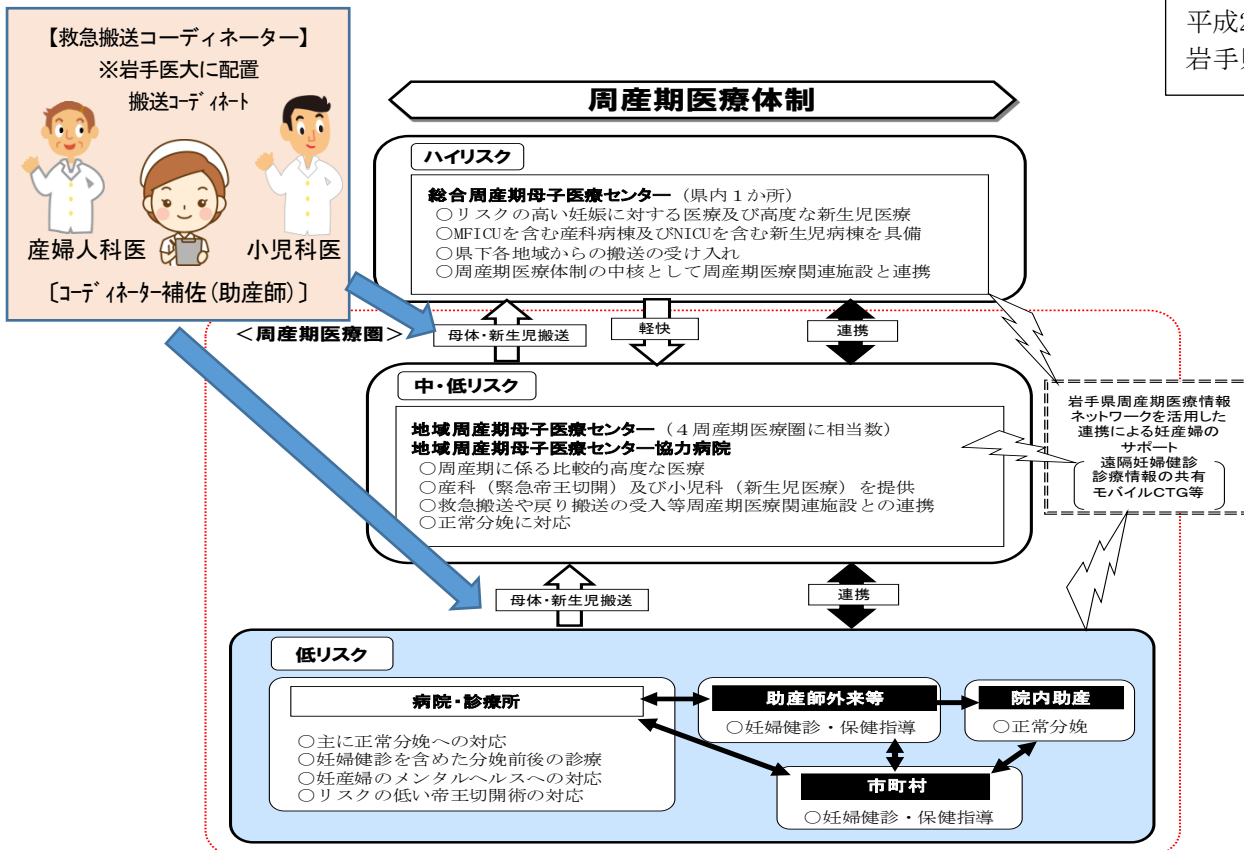
### 【「いーはとーぶ」概要】

県内の医療機関や市町村などがインターネット回線を通じて、妊婦健診や診療情報を共有し、母体搬送や保健指導に必要な情報をリアルタイムに活用できるシステム。

### 【システムの主な特徴】

- ・ ハイリスク妊産婦等の緊急搬送の際の円滑な情報提供により、患者の状況に応じた迅速な医療を提供することができる。
- ・ 市町村においては、ハイリスク妊産婦や産後メンタルヘルスケアが必要な妊産婦の速やかな把握と支援が可能。

- 「いーはとーぶ」と基幹電子カルテを連動させる「周産期電子カルテ」の導入整備（H25年度 北上済生会病院除く周産期母子医療センター等10施設整備済）
- 胎児先天性心疾患の診断に有効な機能を有する超音波画像診断装置（エコー機）の整備
- ・ 周産期母子医療センターへの整備（H25年度～H26年度 周産期母子医療センター等10施設整備済）
  - ・ 分娩取扱等医療機関への整備（H24年度～H27年度 遠野市助産院含む県内26施設整備済）
- 超音波画像（エコー画像）解析装置の整備（H26年度 総合周産期母子医療センター1施設整備済）
- 高精細な超音波画像（4D動画画像含む）を伝送可能な超音波画像伝送システムの導入整備（H27年度 遠野市助産院含む周産期母子医療センター等12施設整備済）



(H28.4.1)

施設名	医療機関名
ハイリスク 総合周産期母子医療センター	岩手医科大学附属病院
中・低リスク 地域周産期母子医療センター	盛岡・宮古 盛岡中央病院 盛岡赤十字病院 県立宮古病院
周産期母子医療センター協力病院	岩手中部・胆江・両巻 県立中部病院 北上済生会病院 県立磐井病院
	気仙・釜石 県立大船渡病院 県立釜石病院
	久慈・二戸 県北地域周産期母子医療センター 県立久慈病院 県立二戸病院
低リスク 病院	一関病院
診療所	診療所(9)
助産所	院内助産(1)・助産師外来(3)
	診療所(10)
	院内助産(0)・助産師外来(4)
	診療所(0)
	院内助産(1)・助産師外来(2)
	診療所(0)
	院内助産(0)・助産師外来(2)

